



本日 第2165回 2015年9月4日(金) No. 2050

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング 「君が代」・「奉仕の理想」

卓話担当者:プログラム委員会

卓話者:尾張旭市教育委員会

管理指導員主事 姫岩 弘治 様

演題:「尾張旭市の教育の現状」

前 回 第2164回 2015年8月28日(金) 記 録

○齊 唱:「それでこそ ロータリー」

○ゲスト: 社会福祉法人 蒲生会大和荘

荘長 長谷川 正様

出席者: 会員21名中19出席 出席率90.47%

前々回補正出席率 8月7日分95.23%

会長あいさつ 古橋エツ子

海外の研究者と話をしているとき、よほど親しくならぬ限り「政治と宗教」の話はしません。何故か?お酒を飲んで酔っ払ったときはシモネタか、政治の話になります。仕事の話をとおして交流が続き、家族ぐるみの交際まで発展して親しくなると、子どもの結婚や高齢の親の介護や相続、そして葬儀にかかわる宗教のことが話題となることがあります。初対面であっても、私が花園大学を紹介するときに「禅宗の一派である臨済宗の、、、」とまで言う、「オ～、ぜん!」といかにもよく知っているといった調子で言われます。よく聞くと、座禅とか、香水の禅を知っているから、ということなのです。でも、そこから会話が広がっていくことは楽しいです。

どの国でも、子どもたちの結婚式や披露パーティの話はうれしい話です。また、家族の看取りについても、ともに悲しみ祈るという点が、ほとんどの国に共通していると感じました。た

だ、悲しみの「心」をどのように慰めるかは様々でした。私の場合は、15年前に大学時代の友人を亡くなって1カ月を過ぎた頃、同級生たちとお参りに行きました。その時、友人の1人が「ねえ、みんなでお経をあげようか」と言ったのです。その一言、そして、皆で読経したことで、ご家族を慰めに来たはずの私たちの方が心を慰められていたことに気がきました。

幹事報告

- ・8/21 (社)尾張旭青年会議所 総会 於 渋川福祉センター 加藤 清久副会長出席
- ・本日の会合: なし
- ・次回の会合: なし
- ・例会変更のお知らせ: 掲示板をご覧ください。

ニコボックス

○長谷川 正様、ようこそお出でくださいました。卓話を楽しみにしています。

古橋エツ子君

○蒲生会大和荘 長谷川様、ようこそお越しくださいました。

森井 晴生君

○ゲストスピーカー長谷川正先生をお迎えして。

箕輪 良孝君

○大和荘長 長谷川正様、ようこそお出でくだ

基本的教育と識字率向上月間・OFDY月間

	9月11日(金)	9月18日(金)	9月26日(土)	10月2日(金)
例会予定	卓話担当者: 舟橋 龍秀君 卓話者: // 演題: 「仏像めぐりの楽しみ」	卓話担当者: 古橋 裕志君 卓話者: 花園大学 准教授 片山 由美様 演題: 「家庭内のヒヤリ・ハットから事故防止を考える」	25日(金) 振替日 月見例会 於良福寺 18:00点鐘	東尾張分区朱宮ガバナー補佐 事前訪問 卓話者: 朱宮新治ガバナー補佐 演題: 「ガバナー補佐訪問に因んで」

さいました。日頃仕事でお世話になっています。アルミサッシ、ガラスなどいろいろお仕事させていただいています。江尻 豪君

○長谷川 正様の卓話を楽しみにしています。

浅野 善吉君、飯田 幸雄君、加藤 清久君
金森 俊輔君、桜井 雅博君、高島 昇君
西尾 輝久君、古橋 裕志君、山田 直樹君

○先週は休みました。伊勢の旧友を訪ねたところ、J Cの総会で戻ってまいりました。

加藤 清久君

○お忙しの君 江尻 豪君

卓 話

「児童養護の歴史と大和荘の状況」

社会福祉法人蒲生会大和荘 荘長 長谷川 正



I 児童養護の歴史

1. 創設期（明治時代）：育児院、孤児院と呼ばれていた。名古屋市南山寮（法人名「愛知育児院」）明治19年創設。岡山孤児院、明治25年頃創設、日本で初めて（？）の児童養護施設と言われ、創立者 石井十次は「児童福祉の父」と呼ばれている。

2. 大正～昭和20年～30年：昭和初期は不景気で捨て子、間引きなどが横行した。（昭和4年、名広愛児園創立）、昭和20年敗戦後の混乱期で戦災孤児、浮浪時が激増した。それに伴い全国で児童養護施設が多数開設した（昭和21年、大和荘開設）。

施設形態は1、2期を通じほとんどの職員が住み込みで、大家族制や夫婦小舎制などをとっていた。

一部に地域小舎制もあった。勤務時間はほとんどの職種が48時間制のところ、児童福祉関係は54時間制であった。

大家族制：1つの大きな建物に複数の職員家族（施設長、処遇職員、調理員など）が30～80人以上の児童と同居する（名広愛児園）

夫婦小舎制：夫（指導員）妻（保母）が家庭を営み、10～15人の児童の世話をする。教護院（現在の自立支援施設）にとくに多かった。

（大和荘-男子寮：夫婦小舎制、女子・幼児寮：大家族制）

3. 昭和30～40年：このころは有名なホスピ

タリズム（施設病）論争が起こった。それに対して集団主義養護論で反論する動きも出てきた。

ホスピタリズム（施設病）論争：「最良の施設でも最悪の家庭に勝てない」。貧乏長屋や橋の下や今で言うブルーシートハウスでインスタントラーメンばかりすすっていても肉親の情けがあればいい。

集団主義擁護論：「施設は家庭に勝るとも劣らない」。沼津市の松風荘施設長 穂惟勝氏提唱。子供同士の育ちあい、育てあい。施設は15～30人のガキ大将を頂点とするいい意味の縦割りの育ちあい集団、現代の子供1～2人の核家族では大人の過保護、過干渉でスポイルされる場合がある。

学校は横割り社会で、地域でも昔のように縦割りで遊ぶことが少なくなった。

4. 昭和40～50年：通勤制広まる。労基法の浸透。聖職から専門職へ。

5. 昭和50～平成10年：少子化による入所率の低下、暫定定員制度・入所率83%を割ると定員を切り下げ。40時間労働制に移行。

6. 平成10年～20年～：被虐待児の激増、発達障害、情緒障害などの児童も増加、社会的養護の一環としての家庭養護（小規模化、地域化）を進める。大舎（20人以上）、中舎（13～19人）の施設は見直し、5～8人のできるだけ家庭に近い小規模施設を地域社会に点在させる。本体施設も小規模化、グループ（ユニット）化し、また高機能化する。第3者評価の義務化。

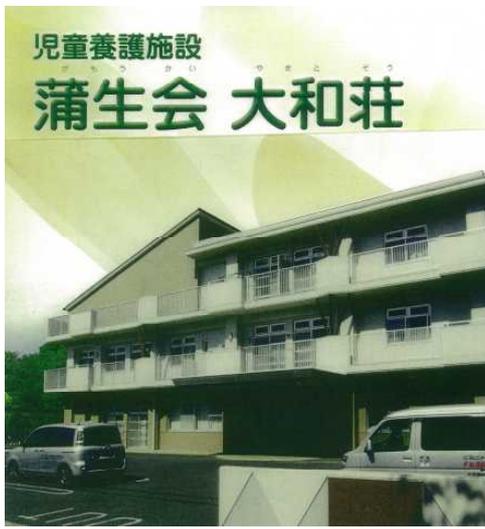
7. 厚労省の描く将来像：H27年度より15年計画で①里親（4人まで）・ファミリーホーム（6人まで、里親の拡大版）、②グループホーム（6人～8人、施設の小規模版）③施設 の3分野をそれぞれ3分の1ずつとする。

キーワード：「社会的養護」こどもの「最善の利益」「あたりまえの生活」。

II 大和荘の指導方針（一部思いつくままに）

1. 古い施設は縦割りの暴力支配が伝統的に続いていることがあるが、縦割り自体は悪いことではない（実社会＝会社は縦制度）が、暴力の連鎖をを断ち切り、人望・人徳支配としたい。

2. ある自立支援施設長の話：そこでは子供を褒めて褒めちぎって育てたいへん効果を持っているという。詳細は不明だが類推すると、誰でも出来る簡単なこと（挨拶、手洗い、うがい、履物そろえ、日課時間を守るなど）を表にして点数をつけ何点以上取ったら賞品を出すなどだろう。確かにそれらの子供は家庭や学校で優られた経験があまりないので、施設で褒めちぎられればうれしくて非行なども治まると思われる。しかしいずれその子が自立就職したとき、実社会ではめったなことでは褒めてくれずむしろ叱られることが多いのではないか、その時また社会を恨み非行に戻ることはないだろうか。我々は子供が施設にいる間だけいい子で、社会に出たからのことは知らないではいけないと思う。



3. アメとムチの指導も究極の目的さはない：そこでアメ（賞品、賞賛）とムチ（罰、叱責）を適当に使って指導すればいいといった考えが出てくる。それも間違いとは言えず小さい子などには有効だが、あまり度が過ぎると常にそれらを与えてくれる人（いわばサーカスの調教師的な人）がそばにないと何もしないことになりかねず、ほうびをくれるならやる、といった功利的な人間になりかねない。大人は独り立ちせねばならず、アメがなくてもいいことをする（奉仕の精神、徳を積む）、ムチがなくても（見つからなくても）悪いことをしない人を育てなければならない。

4. 施設の評価は10年～15年後の卒業生がする：2で述べたように施設の子は社会へ出てからの人生のほうが長く、30歳（而立）から35歳のその人の人生観が確立したころの姿に施設の評価が現れると思う。目標は社会人として自立して働き税金を納められる人になっていることである。最低限、他人（世間）に迷惑をかけない人になってほしい。10年～15年後に卒業生に、あの施設で育ててもらってまあまあ良かったと思ってくれればいい。職員は卒業生が道を踏み外しそうになったとき、顔を思い出してもらえようような存在「これ以上（悪いことを）したらあの先生が悲しむだろうな」になりたい。

Ⅲ大和荘の入所状況（定員70人）

平成年度	2	3	4	5	6	7	8	9	10
入所率%	76.5	77.3	83.9	72	87	98.3	90.7	95.8	94
一時保護	人目 0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均人数	人 53.6	54.1	58.7	50.4	60.9	68.3	63.5	67.1	65.8

平成年度	11	12	13	14	15	16	17	18	①19
入所率%	98.5	96.8	96.5	98.8	100	99.2	100	100	99.9
一時保護	人目 0	0	0	1,395	1,883	1,351	3,860	4,186	2,613
平均人数	人 69	67.8	67.7	73	75.2	73.1	80.6	81.5	87.1

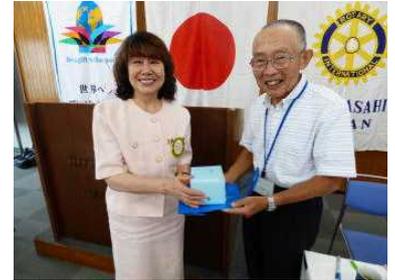
平成年度	20	21	22	23	②24	25	③26	④27
入所率%	99.4	99.7	99.3	91.4	84.8	83.1	80.1	
一時保護	人目 2,628	2,516	1,315	0	0	0	0	
平均人数	人 86.7	86.7	83	73.1	59.4	58.2	56.1	

- ①19年度より定員を10人増やし80人とする。
- ②24年度より定員を70人に戻す。
- ③26年度より暫定定員68人。
- ④27年度より暫定定員64人。

27年度 各月1日現在

月	4	5	6	7	8
措置入所	人 43	42	42	43	50
一時保護	人 3	1	1	3	13

古橋エツ子会長より
長谷川荘長に記念品が
渡されました。



たのしい夏まつり

日時 2015年8月29日（土）18:00よりセレモニー
場所 スカイワードあさひ及び城山公園一帯



△前列右から二人目 古橋エツ子会長

尾張旭RC親睦ゴルフ

日時 2015年8月30日（日）10:00スタート
場所 森林公園ゴルフ場

優勝 箕輪 良孝君
準優勝 金森 秀子様
3位 金森 俊輔君
DC賞 桜井 雅博君、山田 直樹君
NP賞 なし
大波小波賞 金森 俊輔君、山田 直樹君。



優勝の箕輪君（左）

参加者です。
雨が上がり、素晴らしいスコアでした。



「ワールドフード+ふれ愛フェスタ」 (WFF) による奉仕事業のご報告

昨年11月1日～3日まで開催する**第2回**WFFでも収益金はすべてカンボジアの水事業・教育事業支援活動に使われます。

多くの皆様と一緒に、WFFによる人道支援活動を広めていきたいと思っています。

トイレ 40基

昨年11月1日から3日まで開催しました第2回ワールドフード+ふれ愛フェスタ(WFF)による収益金を使ってカンボジア・シエムリアップ近郊の農村にトイレと井戸、小学校2校の児童に制服と文房を寄贈しました。



井戸 17本



制服 300着



文房具 400セット



第1回WFF実績のその後 簡易水道施設



なお、第1回WFFによる収益金で近隣の村に建設した簡易水道施設は、毎日315世帯に貴重な水を送り続けています。また、小学校校庭には農園が併設されて野菜・果物が栽培されており、毎朝、児童が交代で水遣りを行うなど農業学習プログラムとなっています。今後も拡大していく予定となっています。



△簡易水道のおかげで果実が育ちました。

(WFF)の収益金でカンボジア・シエムリアップ州のポイスマッチ村に簡易水道を建設しました。この施設により、315世帯(約1,500人)の村民が清潔な水の恩恵で健康的な生活を送ることができるようになりました。また子供たちは過酷な水汲み作業から解放されて毎日学校に行くことができるようになりました。

地元赤十字社のナリー
ン理事から感謝状を
いただきました



例会費変更

愛知ロータリーEクラブからのお知らせです。
9月2日より(ウェブサイト上) 1,000円になりました。

